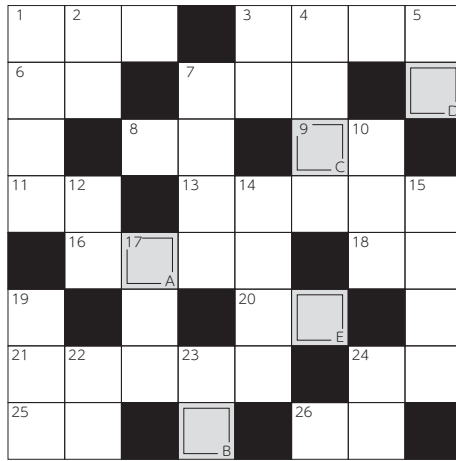


クロスワードに挑戦!

タテ・ヨコの問題を解いていき、AからEの文字を探してこぼれを見つけてね!
ヒント 今年7月20日(土)です



【タテの問題】

1. 火祭りです手に持つ燃えている木
2. シルクロード。〇〇の道
3. 相手の思う〇〇
4. 手紙を投函。〇〇〇〇ポスト
5. 河童の頭に
7. 欲が深い人
10. 数を表す文字
12. 合掌造りで有名な白川郷がある県は?
14. 人の〇〇〇〇で相撲を取る
15. などなぞです。食べても恨まれない中華まんは?
17. 土用の丑の日に食べます
19. 冷たくて甘いもの
22. 振〇〇留〇〇
23. 虫の侵入を防ぎます。〇〇戸
24. 〇〇からばたもち

【ヨコの問題】

1. 落ち葉や木片などを燃やすこと
3. 青い花びら2枚の野草
6. ワンワン吠えます
7. 水分・塩分補給して熱中症〇〇〇
8. フレームのこと
9. 頭部と側面に溝があるネジ
11. すぐあとに続くこと
13. ムラサキウ二よりトゲが短いのが特徴
16. 軒下にぶら下げて音を楽しみます
18. グラフの縦横にあります
20. 縄文時代などに粘土で作られた器
21. せかせかとした足取り
24. 肉の部位。舌のこと
25. 手に何も持っていないこと
26. 〇〇より団子

応募方法: ハガキに答え、住所、氏名(未成年の場合は保護者名も記入)、年齢、広報つがるに対するご意見などを書き添えてお送りください。正解者の中から抽選で5名の方に「お勉強セット」をプレゼントします。(毎月25日締切 ※当日必着)

応募先: 〒038-3192 つがる市役所 秘書広報課まで

6月号の答えは「マサブキ」でした。

22名様より応募していただきました。当選者は次のとおりです。

[敬称略]

煤田由起子(車力町)、伝法谷あき子(稲垣町)、平山照子(木造)、前田典子(森田町)、安田陽子(柏)



国際交流員 コラム

CIRCColumn



「感覚」を忘れずに!

私は大学を卒業し、つがる市に来てもう2年が経ちました。この2年間で、母国のアメリカと日本の共通点や相違点についてたくさん気づき、気づいたことをコラムに書いて皆さんに紹介してきました。その気づきは、主に日本での日常生活で気づくことが多く、アメリカに帰国した時にはあまり気づかないのが現状です。私は、毎年夏に姉妹都市である米国メイン州のバス市へ仕事の関係で行き、一時的に母国へ帰国しています。プライベートでは一度も帰国せず、ゆっくり地元に戻って生活をしていないため、実質2年間帰っていないようなものです。その影響によるものなのか、アメリカ人として当たり前に持っている「感覚」が全体的に鈍っていると感じています。

このことについて読者の皆さんが理解するのは難しいかもしれないので、何個か簡単な事例を用いて説明していききたいと思います。

鈍っていると書きましたが、その中で分かりやすく鈍っているのは英語の表現力です。私は読書が趣味で、日本語でも英語でも欠かさず毎日日本を読んでおり、仕事で翻訳もたまに頼まれるので、文章力においてはとくに鈍っていないと思います。しかし、会話となれば話は違います。信じがたいかもしれませんが、私は日常生活においてほとんど英語を話しません。ごくまれに外国の方が市役所に来て通訳を頼まれた場合には、通常の業務でもプライベートでも全く話しません。アメリカにいる家族とのやりとりはほとんどメールであり、電話はほとんどしないため、英語を使う機会が疎遠になっていきます。久しぶりに家族に電話すると、気を使わない家族が相手でも自分の言

いたいことをうまく表現できないことが多くなっており、家族からは「会話の反応が遅く、表現力もだいたい落ちてる」と言われてしまいます。市役所に外国の方が来て通訳するといった緊張する場面では、意識して話すので表現力に問題はないのですが、プライベートで気を抜いて使う英語の時は特に表現力等が鈍っていると感じます。他にも、日本人はよく会話している時に相槌をうちますが、アメリカではあまりしません。「タツクはなんで私たちが喋ってる時にうんうんと言ってるの?」と最初は家族につつまれたことになって気づき、今でも意識して抑えないと相槌をうつてしまいます。特にこの相槌の有無が、最近感じる「感覚」の違いだと思っています。

また、他にもアメリカ人としての「感覚」を鈍らせている要因の一つに、アメリカのニュースやトレンドを日頃から把握していないことが挙げられます。私は、アメリカに住んでいた頃、興味がなくても毎日テレビをつけていると、様々な情報が耳に入ってきたので、ある程度アメリカ人としての「感覚」を維持できていました。しかし、現在は全くと言っていいほど母国のニュースやトレンドを把握していないので、以前から持っていた「感覚」がどんどん鈍っていると感じております。このことを受けて、最近では日本人が持つ「感覚」とアメリカ人が持つ「感覚」の2つを意識して区別しなければいけないと思っています。みなさんもし海外に住むことがあれば母国の「感覚」を意識して生活することを推奨します。

国際交流員 デパオリ・トーマス

日本初のメロン専門工房

「果房メロンとロマン」

東京神楽坂にオープンしました

エスプーマメロンかき氷



生メロンのフルーツサンド



赤と青のメロンパフェ



7月7日(日)、市のブランド農産物の主力であるメロンに特化したアンテナショップを新宿区神楽坂にオープンしました。

店名「果房メロンとロマン」は国内有数のメロン産地である当市が、お客様へ五感でメロンをもっと楽しんでもらうことや、生産農家をはじめとする関係者すべてのみなさんの「夢」「希望」「情熱」を伝えることを目的としてネーミングしたものです。

夏のメニューとして「生メロンのフルーツサンド」「エスプーマメロンかき氷」「赤と青のメロンパフェ」「3種のメロンティースティング」などをご用意しております。季節によってメニューもどんどん進化していきます。

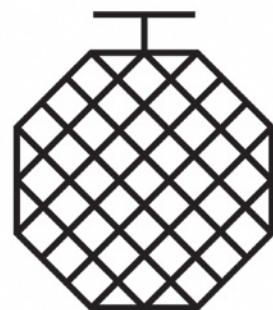
また、今後はアンテナショップのメニューを市内の店舗でも取り扱いができるような展開も視野に入れています。

首都圏にお住まいのご家族・ご親戚・ご友人にお伝えいただき、ぜひ一度ご来店ください。

店舗情報

場所 東京都新宿区神楽坂 3-6-92 新谷ビル
(1F: 工房・テイクアウト、2F: カフェ)
営業 11:30-17:30 (月・火・年末年始を除く)
電話 03-6280-7020
URL <https://www.melon-roman.com>

問 つがる市東京事務所
東京都新宿区神楽坂 3-6-92 新谷ビル3F
電話 03-5946-8505



果房 メロンとロマン

Melon Craft Foods and Drinks

※店の外観や店内の様子などについては、広報つがる2019.8月号(No.212)でお知らせする予定です。